日本リウマチ財団ニュース
Japan Rheumatism Foundation News

NO. 117 年6回発行

2013年3月号

2013年3月1日発行

発行 公益財団法人 日本リウマチ財団 〒170-0005　東京都豊島区南大塚2丁目39番7号 ヤマモト大塚ビル5階　TEL.03-3946-3551 FAX.03-3946-7500
日本リウマチ財団への交通のご案内 ●JR山手線大塚駅・南口より徒歩3分 ●地下鉄丸の内線新大塚駅より徒歩6分
※リウマチ財団ニュースはリウマチ登録医を対象に発行しています。本紙の購読料は、リウマチ登録医の登録料に含まれています。
編集・制作 株式会社ファーマ インターナショナル（担当 遠藤昭範, Gavin Buffett）

リウマチ情報センターホームページアドレス　http://www.rheuma-net.or.jp/

平成 24 年度 日本リウマチ財団・法人賛助会員打合会

平成 24 年 12 月 11 日 於 学士会館

平成 24 年度の法人賛助会員打合会が 12 月 11 日，東京・千代田区の学士会館で開催された。はじめに髙久史麿代表理事が挨拶を述べ，日本リウマチ財団が 24 年 11 月に第 64 回保健文化賞を受賞したことなどを報告した後，松原メイフラワー病院院長の松原司氏と，前衆議院議員，元厚生労働大臣の坂口力氏がそれぞれ講演を行った。

講　演　1
新しい登録医制度に基づくリウマチ診療のネットワーク化について

演者：松原 司 松原メイフラワー病院 院長
座長：狩野 庄吾 自治医科大学 名誉教授

リウマチ診療のネットワーク化を視野に入れて，日本リウマチ財団登録医規則が改定され，新しい登録医制度がスタートした。松原司氏は最初に，今回の登録医制度改定の背景となった近年のリウマチ医療の世界的規模の変化を鳥瞰的に解説した。

リウマチ医療の変化の大きなポイントとして，松原氏は，①関節リウマチ（以下，RA）の分類基準が新しくなった ②治療目標が明確になった ③評価基準の世界的統一が図られた ④国内で MTX が第一選択の DMARD として使用可能になり，かつ 16mg/ 週まで使用可能になったこと の 4 点を挙げた。

①については，ACR/EULAR の 2010 年の RA 診断基準が極めてシンプルに，感度高く設定され，鑑別診断の基準としては精密さを欠くものの，早期診断・早期治療によるアウトカム改善のメリットの大きさが重視され，本基準が現在の主流となっている。

② 2000 年代初頭より生物学的製剤が登場し，RA 治療に大きな進歩をもたらしたが，同時に，治療目標と治療戦略の医師ごと，施設ごと，患者ごとのばらつきが明らかになり，目標を明確に定めた治療戦略（Treat-to-Target；T2T）が求められるようになった。糖尿病における HbA1c コントロールや，高血圧症の血圧コントロールで早くから導入され，大きな成果を挙げている T2T は，RA 治療にも有効であると考えられている。

③ T2T の概念の普及に伴い，「寛解」の基準に検討が加えられ，CDAI，SDAI，Boolean 型といった世界共通の寛解基準が用いられるようになった。

④ MTX が第一選択として使用可能になり，欧米同様に日本でも MTX が RA 治療のアンカードラッグの位置を占めるに至った。

松原 司 氏
松原メイフラワー病院 院長

狩野 庄吾 氏
自治医科大学 名誉教授

続いて松原氏は，国内の RA 専門医の 70 ～ 80％は T2T を有効に実施しているものの，非専門医を含む RA 治療全体としては T2T の概念がまだ十分に浸透しているとはいえない現状を指摘。さらに，日本の RA 治療の状況として，患者の約 60％は，RA をサブスペシャリティとする医師によりコントロールされていること，また，いわゆる RA コントロール格差が存在することは否定できず，この格差を是正することが，RA 治療の底上げにつながることを強調した。

最後に松原氏は，新しい登録医制度の特徴として，登録を希望する医師にあまり高い要求を課すことはせず，むしろ間口を広げて，非専門医を含む多くの医師を迎え入れ，登録をした後に RA について多く学んでもらうという順序で，RA 知識の啓蒙と治療のレベルアップを図る姿勢をアピールした。また，そのようにして仲間に加わった財団登録医が，地域連携を通じて相互に連絡を取り合い，RA 診療のネットワークを地域に形作っていくことが望まれていると述べた。

（次ページに続きます）

検　証　リウマチクリニックの経営術
リウマチレスキューの実践で目の前の患者を救う
織部リウマチ科内科クリニック（大分市）訪問

聞き手　後藤　眞 氏
（桐蔭横浜大学医用工学部臨床工学科不老科学・加齢制御学部門 教授）
話し手　織部 元廣 氏
（織部リウマチ科内科クリニック 院長）

本シリーズでは，病院，クリニックを問わず，積極的にリウマチ診療にあたり，高い成果をあげている施設の経営や治療哲学，地域連携の工夫などを紹介しているが，今回は九州に足を延ばし，ユニークな経歴，活発な活動のリウマチ診療を展開している，クリニックの院長から話を聞いた。大分県大分市の駅近のビルの 1 階に訪問先の「織部リウマチ科内科クリニック」があった。訪問時間はすでに診療時間を過ぎており，スタッフは帰宅し，ひとり院長の織部元廣氏が待っていた。

沿革

織部リウマチ科内科クリニックは，大分県全域から毎日約 80 人の患者さんを集める，県内指折りのリウマチ診療施設である。院長の織部元廣氏は順天堂大学医学部卒業後，九州大学温泉治療学研究所でリウマチ診療の実践について多くを学び，大分県内の基幹病院で要職を務めた後，平成 18 年に現在地でクリニックを開業した。織部氏によると，大分市や別府市などの市街地では，連携可能な病院などの施設も少なくないが，山間部の患者に対する緊急時の対応などには苦労させられることも少なくなく，草の根の関係を構築して連携に努めているという。

施設・環境

交通の要衝である JR 大分駅から徒歩 7 分の立地で患者さんのアクセスはよい。駅近くのビルの 1 階に位置し，リウマチ診療に必要な検査機器も充実している。

「多芸多才と一症例入魂」

―お部屋にはトロフィーや盾が並んでいますが，何か武道をなさっているのですか。

織部：極真会館で空手をしています。これまで九州大会で 2 度準優勝しています。私の手の胼胝は空手の修行でできたものです。

―空手などの武術をされることは，診療にもよい影響を与えていますか。

織部：よい影響はあると思います。稽古中の捻挫などで自分でも痛みを経験していますから。例えば，最近私が出した『関節リウマチ診療の現場』（日本医学出版刊）の内容にも，武道の経験が反映していると思います。また，作詞作曲も趣味で，400 曲以上作曲していて，CD を制作して患者さんにお配りしています。このようなことも患者さんとの心の交流が広がるよい機会と捉えています。

―それでは，患者さんをご招待してのイベントなども実際に行っておられるのですか。

織部：年に 2 回診察室でギターコンサートを開いています。

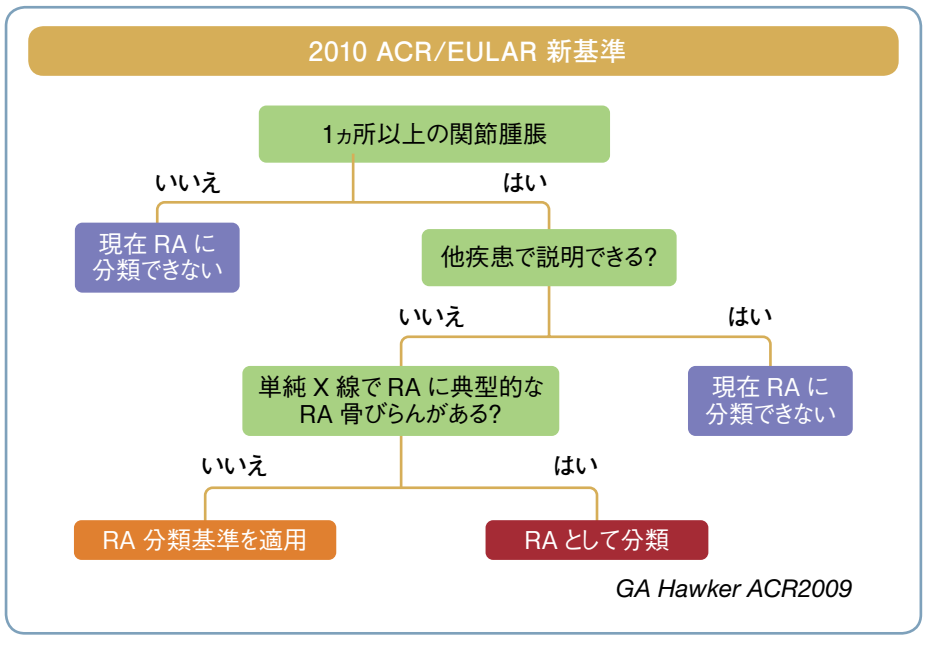
―武術は人と対面して相手の様子を見ながら自分の行動を決める訳ですから，診療時にかなり役立つのではないでしょうか。相手の間合いを測ったり，呼吸を合わせたりするので診察の際にも応用できるのでしょうね。

（次ページ下段に続きます）

117 号の主な内容

- 平成 24 年度 日本リウマチ財団・法人賛助会員打合会
- 検証 リウマチクリニックの経営術
- リウマチ各賞及び研究助成者決まる
- アナウンスメント
- トピック
  公立大学法人横浜市立大学
  記者発表資料より

（平成 24 年度 日本リウマチ財団・法人賛助会員打合会 つづき）



講　演 2
消費税増税の医療・医薬品への影響について

演者：坂口 力 前衆議院議員，元厚生労働大臣
座長：西岡 久寿樹 東京医科大学医学総合研究所 所長

民主党政権下で検討が始まった「社会保障・税一体改革」の一環として，消費税率が 2014 年 4 月から 8%に，15 年 10 月から 10%にアップされることが決まった。10%に増税後，現行税率との差額 5%はどのように使われるのか，予定されている使途の大まかな内訳を坂口力氏が解説した。

まず 5%のうち，4%・10.8 兆円が「社会保障の安定化」に，1%・2.7 兆円が「社会保障の充実」に，大きく振り分けられる。このうち，社会保障の安定化とは，既に社会保障費として支出されている金額のうち，新しい財源（= 消費税増税分）で置き換えられる部分をいう。社会保障の充実とは，今後の新しい使途に支出される金額である。従って，消費税の増税分から社会保障費として新たに支出されるのは，5%のうちの 5 分の 1，1%だけである。

社会保障の安定化のための 4%・10.8 兆円の内訳は，年金の国庫負担分として 2.9 兆円，「後代への負担のつけ回しの軽減」のために 7.0 兆円，消費税増税に伴う社会保障支出の増加分として 0.8 兆円が予定されている。後代への負担のつけ回しとは，現在国債などに頼っている部分のことであり，これを軽減することが考えられている。

坂口 力 氏
前衆議院議員，元厚生労働大臣

西岡 久寿樹 氏
東京医科大学医学総合研究所 所長

社会保障の充実のための 1%・2.7 兆円の使途として予定されているのは，子ども・子育て支援の充実に 0.7 兆円程度，医療・介護の充実に 1.4 兆円程度，および年金制度の充実に 0.6 兆円程度である。

最も気になる「医療・介護の充実」1.4 兆円の内訳は，医療が 0.9 兆円程度，介護が 0.5 兆円程度になるだろうと言われている。ここで，もし医療に割り当てられた 9,000 億円を，すべて診療報酬支払いの国庫負担分として支出すると，現在，医療費負担の保険財源と国庫の分担割合はおおよそ 3 対 1 であるので，この比率を維持するなら保険財源から 2.7 兆円の支出を新たに要することになり，現在既に悪化している国保や協会けんぽの財政をさらに圧迫する。従って，9,000 億円がすべて診療報酬支払いに回されることはおそらくなく，半分程度を診療報酬支払いに，残りの半分を医療の他の分野に回すことなどが予想される。

坂口氏は続いて，社会保障制度改革国民会議の遠藤久夫委員が昨年 12 月に提出した資料から，医療分野の今後の課題に言及した部分を紹介した。

同資料は，医療制度改革の方向性として，医療費適正化の推進，病院・病床機能の分化・強化，在宅医療の推進，保険給付の対象範囲の適正化などを掲げているが，坂口氏は，政府関係文書でしばしば用いられる「適正化」という表現は「抑制」「縮小」を意味することが多いと指摘。ここでも全体として医療費抑制の方向が示され，今後もそれに向かってさまざまな知恵を絞っていくことが求められているとの厳しい認識を示した。

（文責編集部）

会場の様子

社会保障の充実にどれだけ使用されるか

- 「社会保障の安定化」……4%……　10.8兆円
  既に社会保障制度に使用されていたものを，新しい消費税で置き換える額。
- 年金国庫負担の2分の1 ……　2.9兆円
- 後代への負担のつけ回しの軽減……　7.0兆円
- 消費税引き上げに伴う社会保障支出の増加分 ……　0.8兆円
- 「社会保障の充実」……1%……　2.7兆円
  今後新しく使う額。

（検証 リウマチクリニックの経営術 つづき）

織部 元廣 氏
（織部リウマチ科内科クリニック 院長）

織部：精神力は鍛えられますし，「一症例入魂」といいますか，例え 100 人の患者さんを続けて診ても，1 人も手を抜かずに診察できるという自信はあります。そのような面では非常に役立っているでしょうね。武道を始めてもう 30 年以上になるので，セミナーなどでは「職業は空手家，趣味は医師」と自己紹介することもあります。

織部クリニックは大分県全体の患者さんを診ている

―クリニックの診療圏や受診患者数についてお聞かせください。

織部：患者さんは大分県全域から来られ，月に 1400 人ほど診察しています。私は，カルテとは別に全症例をノートに記録するようにしています。私は，大分赤十字病院を退職して開業したのですが，日赤病院では月に約 1000 人の患者さんを診ていました。平成 18 年の開業当初は月に 850 人程度でしたが，その後増加して現在では約 1400 人になっています。1 日の受診患者数は約 80 人で，新患の場合は月に 2 ～ 3 回受診してもらい，症状が安定すれば月に 1 回の受診とし，さらに落ち着いたら 2 ヵ月に 1 回ぐらいまで期間を延ばします。

―生物学的製剤を処方されている患者数についてはいかがですか。

織部：導入患者数は 700 例を超え，月平均 350 例に投与しています。薬剤は，エンブレルなどの自己注射剤が約 9 割を占めています。

―700 例，それはすごいですね。クリニックの運営はどのようにされているのですか。

織部：ベッドは，開放療法ルームに 2 床，処置室に 3 床の計 5 床です。看護師は，処置室に 3 人と師長 1 人で，全員が登録リウマチケア看護師です。登録ナースは大きな戦力になりますね。

後藤 眞 編集委員長と織部 元廣 氏

―登録ナースは外部から募集されたのですか。

織部：師長は日赤病院から移って来ましたが，あとの 3 人は当クリニックで新規に募集しました。3 人とも特にリウマチにかかわっていた訳ではないのですが，私が講義するとともにリウマチ財団の講習にも参加させ，資格を取得してもらいました。

―先生は，講演で全国を回られることが多いのですが，その際外来はどのようにされていますか。

織部：外来はすべて私 1 人でこなしています。講演で東京に行っても，飛行機の深夜便がある北九州空港経由で大分に戻り，翌日は通常通りの外来診療です。

病診・診診連携は顔の見える関係が基本

―この訪問シリーズでは，全国の医療連携の展開を草の根で取材しているのですが，先生は連携促進のためにどのような工夫をされていますか。

織部：私は，カンファレンスやいろいろな

（4 ページに続きます）

後藤 眞 編集委員長と織部 元廣 氏

（検証 リウマチクリニックの経営術 つづき）

会に顔を出して，関係構築に努めています。しかし，一番大切なのは顔の見える，心の通じる関係だと考えているので，個別に懇親会を開いたり一緒に食事したりして信頼関係を築くようにしています。また，私の出身母体である日赤病院の勉強会に参加していますし，大分県立病院，大分市医師会立のアルメイダ病院，それに大分大学の先生方とはリウマチ関連の会で顔を合わせたときなどに交渉しています。

―大分市や別府市以外の山間部などではどのように対処されていますか。

織部：都市から離れた地域では，当該地域の救急病院や開業の先生方に一時的にお願いし，後日出向きます。

―そのような非専門医の先生方に，使い方が難しい生物学的製剤やメトトレキサートについてどのように情報提供されていますか。

織部：確かに難しい面があります。一時的には肺炎などへの対応をお願いし，さらにDMARDs（抗リウマチ薬）について個別に説明するということの繰り返しですね。

―例えば大分地区で，患者さんを受け入れてくれるのは整形外科，内科のいずれが多いですか。

織部：もちろん整形外科でも引き受けていただいていますが，内科系の普通の先生がかえって多いです。特に，合併症がある場合は内科が多くなります。非専門医の先生には講演会などで情報提供しています。多いときには毎週のように講演会で回ります。

―結局は大学の医局のルートが多いと思うのですが。

織部：最低限のネットワークはおっしゃる通りですね。私の場合は，大分には卒業大学のルートはないので，個別にお願いすることが多いです。結局は心の，日ごろのお付き合いが大切だなと感じています。それに尽きると思っています。

―確かにそうですが，気持ちの面だけでなく技術の問題としてはいかがでしょう。

織部：当クリニックの月あたりの新患患者数は約80人ですが，そのうちの半数は紹介患者です。そこで紹介元の先生に一度おいでいただいて，自分の診療方法を伝えています。その一環として，『関節リウマチ診療の現場』を刊行したのです。この本を読めば，私がいなくても織部流の治療が分かるようになっています。ですから，この本では最初に「リウマチレスキューの手技」の章を持ってきました。つまり，まず痛みから患者さんを救うことをテーマにしています。

―なるほど。リウマチ診療で何が一番大事かといえば，やはり痛みのコントロールということになりますね。

織部：特に開業の現場では，痛みを取ってあげることが先決です。ですから，関節注射を含む注射手技については，写真を交えて詳しく書きました。

―そのような実技指導が教育の場でも不足していますね。

織部：そうですね。リウマチを診療する場合は，内科出身であっても膝，肩，足首，指などの関節への注射手技の習得が求められますね。

―注射一本で苦痛が取れれば患者さんも喜びますね。

織部：患者さんの反応はものすごくよいですね。

―入院が必要な場合はどちらの病院へ紹介しますか。

織部：アルメイダ病院，大分大学医学部附属病院のほか個人病院にも紹介します。手術が必要な場合には，指と肘関節，膝は明野中央病院か大分病院，股関節は大分大学に紹介します。

―ほかの科も含めて，紹介などのご苦労はいかがですか。

織部：リウマチの専門医も多くないのですが，呼吸器内科の専門医が少ないですね。普通の肺炎を診てもらえる医師が少なくて困ります。

―呼吸器内科は全国的に少ないですね。かつて肺結核が蔓延していたころは呼吸器の感染症を診る医師は多かったのですが，現在の呼吸器の主流が肺癌に移行したため，少なくなっているのですね。先生は個人的つながりで患者さんを受け入れてもらっているということですが，個人では継続性などに限界があると思います。例えばこれをシステムとして作っていくといったお考えはないですか。リウマチ財団ではそのようなシステム作りのお手伝いができないかを検討中です。

織部：システムについては，例えば公的病院とネットワークを組んでも，病院で医師や看護師長に異動があると，科全体の方向性ががらりと変わってしまいます。例えば，後任の師長がリウマチ以外に力を入れると，そこでつながりが途切れてしまいます。その点，財団から支援が得られれば大変心強いです。

―特に病院看護師は，せっかくリウマチケアの資格を取っても，ローテーションで異動すれば使い道がなくなってしまいますね。

織部：その通りで，大問題です。逆にクリニックでは看護師は固定されていますから，経験の蓄積もできています。ですから，当クリニックの師長は他施設で講演することも多いです。

―クリニックのリウマチ診療としては，十分質が高いそうですね。そこで1つ問題は，手術や副作用の対応が迅速にできるネットワーク作りということになりませんか。その点で私は，佐世保中央病院の連携システムに注目しています。

織部：佐世保中央病院のシステムは，院長の植木先生のご努力によるところが大きいです。中央病院の診療圏には島が多いという背景から，各島との連携を取るために作られたのですが，よい先駆けだと思います。

今やリウマチ診療はクリニックが主体に

―ここまでの話題にも出てきましたが，現在ではリウマチ診療は患者にとっても経営面でもクリニックの方がうまくいくという印象ですが。

織部：そうですね。治験も圧倒的にクリニックが多いですし，リウマチ診療では常に最先端の情報に接している必要もありますから，開業医の情報量も豊富です。そして，日常診療を重ねていると，この患者さんの治療標的はIL-6かTNF-αかというような予測もつくようになってきます。そして，そのような経験やひらめきを研究ノートに記録しています。

―それを広く発表する必要がありますね。

織部：学会では20本ぐらい演題を出しています。

―すごいですね。しかし論文にまとめないといけないですね。

織部：周囲からも「書け，書け」と言われるのですが，論文は年1回程度ですね。ただ，思いついたことを研究ノートに書いておいて，後からそれを臨床で実践できるという点が非常に楽しいですね。その内容を論文にしていないのは残念なのですが，『関節リウマチ診療の現場』には盛り込みました。

―やはり開業医の弱みは，論文にする時間がないことが大きいですね。しかし，論文にすることで，問題の整理ができて世界も広がります。

織部：それで2，3日前から書き始めたところです。英語の論文は特に難しいです。

―特に英語でものを書くと本当に頭がクリアになります。時には，レフェリーが意地悪なコメントを入れてきたりすることもありますが，それをいかに切り抜けるかもスリリングで面白いです。

織部：私も60代の趣味は英語にしようと思っています。日本語の論文は出しているのですが，やはり英語の方が評価は得られるようです。

臨床から得られた知見と発表の場

―例えば，織部先生が臨床から得られた知見としてどのようなものがありますか。

織部：私の著書にも書いたのですが，リウマチでも非びらん型，つまり炎症の強いびらんができないタイプにはトシリズマブがよく効き，びらんが目立つタイプにはTNF-α抑制に関与する他の生物学的製剤が有効だということが分かってきました。例えば，スティル病やキャッスルマン病のように，IL-6の関与が大きい疾患ではびらんができません。一方，びらん性関節炎などにはTNF-αを抑制する薬剤が効きます。

―これはぜひLancetのletterに書けばよいですよ。

織部：そうですか。自分なりに大発見したと感じています。このようなアイデアはいくらでも浮かんでくるのですが，開業していると論文にする時間がないのです。例えば，変形性関節症（OA）にも色々なタイプがあると感じていますが，教科書的に言及されることは無いようです。このように，実地臨床の印象とは違うと思うことも多いですね。

―欧米では，疾患を単純化してとらえようとする傾向があるので，そのように何か違う」という部分は，ノイズとして消してしまうのです。

織部：欧米は，上から体系的に降ろしてくるというのが好きで，積み上げ式というのは基本的に嫌うという傾向があるようですね。

―そうですね。それは，論文を欧米の雑誌に出すと嫌になるぐらい分かります。こちらが細かく真面目に書いていると，「これ

開業以来の全症例が記録されたノート

著書「関節リウマチ診療の現場」と自作CD

著書「関節リウマチ診療の現場」の冒頭より抜粋して転載

織部氏の診療指針が明快に分かる。

リウマチ臨床においてリウマチ医はしばしば危機的状況に出くわす。ステロイドやメソトレキサート，生物学的製剤などの免疫を変容させる薬剤を主として扱う科における宿命ともいえる。それだけこの危機に対する対処法をマスターしておくことが要求される。リウマチ性疾患のレスキューとして，痛みにまつわるもの，感染症，有害事象がある。この章ではリウマチ診療の現場で遭遇する危機的状況のそれぞれのレスキューについて，その対処法を紹介する。

Announcement

[登録医研修単位認定講演（H25.3 ～H25.7）]

この研修会は医師のみを対象に開かれています。

※ お問い合わせは連絡先または財団へ，時間は認定講演開始時間。

財団主催の教育研修会および単位認定講演については，リウマチ情報センターのサイト（http://www.rheuma-net.or.jp/）で見ることができます。
問い合わせ先：日本リウマチ財団　TEL.03-3946-3551

北海道・東北

3/16（土）15:15　2単位　北海道
関節リウマチ特別セミナー in Sapporo
旭化成ファーマ㈱
今井 浩貴
Tel.011-261-5445

3/16（土）19:00　1単位　北海道
第四回 道北臨床リウマチ研究会
中外製薬㈱
藤田 亮介
Tel.0166-24-6311

5/10（金）19:00　1単位　北海道
第16回 道南関節リウマチ・膠原病懇話会
旭化成ファーマ㈱
山浦 将太郎
Tel.0138-31-6701

5/25（土）17:15　1単位　北海道
第13回 翠巒内科研究会
MSD㈱
五十嵐 貴史
Tel.080-5479-1119

3/21（木）19:15　1単位　秋田
秋田県整形外科セミナー
アステラス製薬㈱
河村 健一
Tel.018-825-5177

3/16（土）16:30　2単位　山形
第26回 山形リウマチ研究会
ファイザー㈱
浅倉 康正
Tel.023-633-8720

関東・甲信越

3/16（土）19:20　2単位　栃木
第19回 宇都宮市リウマチ研究会
英心会 倉持整形外科　今宮
倉持 英輔
Tel.028-658-8778

3/23（土）18:30　2単位　栃木
栃木リウマチネットワーク講演会
自治医科大学アレルギー・リウマチ科
簑田 清次
Tel.0285-58-7358

3/28（木）～3/29（金）12:10 各1単位 栃木
第53回 関東整形災害外科学会ランチョンセミナー
第53回関東整形災害外科学会運営事務局
鈴木 規史
Tel.03-5216-5318

4/4（木）19:15　1単位　群馬
第6回 群馬線維筋痛症を語る会
日本臓器製薬㈱
髙谷 貞良
Tel.027-324-0441

5/18（土）18:00　2単位　群馬
群馬リウマチアカデミー
ファイザー㈱
若生 将希
Tel.027-328-6121

5/11（土）18:00　1単位　埼玉
第6回 埼玉Biologics 研究会
田辺三菱製薬㈱
脇本 文子
Tel.048-645-2937

5/17（金）20:00　1単位　千葉
第16回 東葛リウマチ医会
富田医院
富田 康之
Tel.04-7165-8887

5/30（木）19:15　1単位　千葉
第20回 南総リウマチ研究会
医療法人社団光友会 よねもと整形外科
米本 光一
Tel.0475-40-1065

3/23（土）15:00　2単位　東京
第3回 リウマチ治療戦略シンポジウム
アステラス製薬㈱
渋澤 隆
Tel.03-3244-3300

3/27（水）20:00　1単位　東京
第5回 ハイリスクリウマチ膠原病ネットワークセンター学術講演会
武田薬品工業㈱
井上 友香梨　Tel.03-5322-6000

5/14（火）19:30　1単位　東京
第35回 ひがし東京リウマチ研究会
田辺三菱製薬㈱
堀　徹
Tel.03-3647-1211

6/29（土）16:30　1単位　東京
第29回 城南リウマチ会
武田薬品工業㈱
笹野 恭彦
Tel.03-5456-9876

3/16（土）19:30　1単位　神奈川
第5回 神奈川東部リウマチフォーラム
田辺三菱製薬㈱
北目 武史
Tel.045-472-2653

4/3（水）19:00　1単位　神奈川
第12回 横浜関節疾患研究会
第一三共㈱
土屋 祐介
Tel.045-640-1856

4/23（火）19:50　1単位　神奈川
第12回 横浜リウマチ・膠原病研究会
大正富山医薬品㈱
中村 武志
Tel.045-471-1956

5/11（土）17:10　1単位　山梨
第7回 山梨大学整形外科セミナー
山梨大学医学部整形外科
佐藤 信隆
Tel.055-273-6768

3/15（金）19:15　1単位　新潟
第55回 新潟リウマチ研究会
新潟大学医学部整形外科学教室
遠藤 直人
Tel.025-227-2272

東海・北陸

3/16（土）17:00　1単位　石川
第29回 石川県リウマチケア研究会
エーザイ㈱
岡 哲司
Tel.076-221-6151

3/30（土）18:30　1単位　石川
関節リウマチ治療セミナー in 北陸
大正富山医薬品㈱
赤松 徹郎
Tel.076-263-6628

5/11（土）17:30　1単位　石川
石川リウマチ医療連携を考える会
ファイザー㈱
塚原 伸二
Tel.080-3584-8152

6/29（土）19:00　1単位　石川
第15回 石川リウマチ薬物治療研究会
田辺三菱製薬㈱
稲谷 寛志
Tel.076-221-8111

7/14（日）11:30　1単位　石川
第42回 北陸リウマチ・関節研究会
金沢大学　整形外科
加畑 多文
Tel.076-265-2374

3/17（日）11:00　1単位　福井
第10回 福井RAファーラム
アッヴィ合同会社
添田 勝
Tel.076-223-6617

3/28（木）19:00　1単位　福井
第9回 嶺南リウマチ研究会
泉ヶ丘病院
川原 英夫
Tel.0770-22-7700

5/11（土）18:00　1単位　岐阜
第5回 Gifu Biologics Conference
アッヴィ合同会社
土田　智史
Tel.080-2194-6332

3/16（土）15:45 16:45 18:00 各1単位 愛知
第5回 愛知県整形外科医会リハビリテーション研究会
帝人ファーマ㈱
西野 毅　Tel.052-249-3910

3/16（土）17:00　1単位　愛知
第10回 関節リウマチ合併症研究会
武田薬品工業㈱
武内 清和
Tel.0564-25-2400

3/30（土）17:00　1単位　愛知
愛知リウマチセミナー
アステラス製薬㈱
吉田 栄一
Tel.052-211-3401

3/30（土）17:00　1単位　愛知
愛知県骨粗鬆症セミナー2013
中外製薬㈱
中村 朋弘
Tel.052-961-8516

4/13（土）18:00　1単位　愛知
第24回 東三河整形外科医会教育研究会
田辺三菱製薬㈱
加藤 隆夫
Tel.0564-66-0082

5/18（土）17:40　1単位　愛知
第34回 東三河リウマチ研究会学術講演会
田辺三菱製薬㈱
嶋田 嘉典
Tel.0564-66-0082

6/8（土）17:00　1単位　愛知
東海シェーグレンシンドロームカンファランス 2013
日本化薬㈱
大野 由紀子　Tel.052-586-1355

近　畿

3/16（土）15:00　2単位　大阪
第10回 大阪京阪生物学的製剤を学ぶ会
中外製薬㈱
通 崇夫
Tel.06-6993-3733

3/16（土）16:30　1単位　大阪
大阪臨床整形外科医会（第250回研修会）
みやしまリウマチ整形外科クリニック
宮島 茂夫
Tel.072-837-3100

3/16（土）17:00　1単位　大阪
第11回 リウマチ病診連携の会
田辺三菱製薬㈱
巌渕 暁生
Tel.072-726-0162

3/23（土）16:30　2単位　大阪
第5回 城北整形外科フォーラム学術講演会
（医）成宏会 伊藤外科整形外科
伊藤 智康
Tel.06-6953-0071

4/6（土）14:45　2単位　大阪
第28回 大阪リウマチカンファレンス
ファイザー㈱
杉原 祐貴
Tel.06-6575-5521

4/13（土）18:00　1単位　大阪
第20回 近畿小児リウマチ・膠原病研究会
中外製薬㈱
橋詰 雅之
Tel.06-6350-6360

3/23（土）17:00　2単位　兵庫
兵庫MTX適正使用セミナー
参天製薬㈱
黒本 卓司
Tel.06-6321-7382

3/28（木）19:00　1単位　兵庫
整形外科フォーラム in Kobe
辻整形外科医院
辻 壽
Tel.078-805-3111

4/4（木）19:30　1単位　兵庫
病診連携懇話会
中外製薬㈱
仲谷 慎太郎
Tel.079-288-2841

4/6（土）16:00　2単位　兵庫
兵庫県整形外科医会 平成25年度第2回学術講演会
医療法人社団 よしだ整形外科
吉田 竹志　Tel.072-772-5055

4/27（土）16:20　2単位　奈良
第10回 奈良県リウマチ研究会
ファイザー㈱
稲垣 裕介
Tel.06-6575-5211

4/5（金）～4/6（土）6日12:10 1単位 和歌山
第120回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 吉宗セミナー
日本コンベンションサービス㈱
中村 祥二　Tel.06-6221-5933

4/5（金）～4/6（土）6日13:50 1単位 和歌山
第120回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会
日本コンベンションサービス㈱
中村 祥二　Tel.06-6221-5933

中国・四国

3/30（土）18:00　1単位　岡山
第44回 岡山リウマチ研究会
科研製薬㈱
福田 幸弘
Tel.086-246-3232

4/13（土）19:00　1単位　岡山
第301回 岡山県臨床整形外科医会研修会
竜操整形外科病院
角南 義文
Tel.086-273-1233

5/18（土）19:00　1単位　岡山
第302回 岡山県臨床整形外科医会研修会
竜操整形外科病院
角南 義文
Tel.086-273-1233

3/25（月）19:15　1単位　広島
呉整形外科会学術講演会
（医）エム・エム会 マッターホルンリハビリテーション病院
白川 泰山　Tel.0823-22-6868

4/6（土）19:30　1単位　広島
広島県臨床整形外科医会研修講演会
原田リハビリ整形外科
原田 英男
Tel.082-870-5555

5/23（木）～5/26（日）23日11:55　広島
24日12:15 25日12:10 26日11:45 各1単位
第86回 日本整形外科学会学術総会 ランチョンセミナー
㈱コングレ 名倉 一則 Tel.06-6229-2777

5/23（木）～5/26（日）24日17:50　広島
25日 18:40 各1単位
第86回 日本整形外科学会学術総会 イブニングセミナー
㈱コングレ 名倉 一則 Tel.06-6229-2777

5/23（木）～5/26（日）23日17:45　広島
24日8:00 25日13:35 26日8:00 各1単位
第86回 日本整形外科学会学術総会
㈱コングレ
名倉 一則　Tel.06-6229-2777

3/15（金）20:30　1単位　山口
第6回 関門リウマチフロンティア
田辺三菱製薬㈱
河北 憲昭
Tel.083-972-5311

3/28（木）19:30　1単位　山口
第7回 周南Biologics Meeting
田辺三菱製薬㈱
河北 憲昭
Tel.083-972-5311

4/12（金）19:15　1単位　山口
第17回 下関整形外科医会
ファイザー㈱
木下 俊二
Tel.082-502-7311

3/26（火）20:00　1単位　徳島
第8回 徳島リウマチ医の会
武田薬品工業㈱
加藤 勝也
Tel.088-623-4333

九州・沖縄

5/15（水）19:45　1単位　福岡
福岡RA生物学的製剤治療研究会
（医）近藤リウマチ・整形外科クリニック
近藤 正一
Tel.092-762-2380

5/17（金）20:00　1単位　福岡
第96回 福岡リウマチ懇話会
（医）近藤リウマチ・整形外科クリニック
近藤 正一
Tel.092-762-2380

3/21（木）20:00　1単位　大分
第103回 大分県リウマチ懇話会
参天製薬㈱
伊崎 篤史
Tel.092-411-0119

3/23（土）18:00　2単位　鹿児島
第26回 鹿児島リウマチ医療の会
参天製薬㈱
中西 幸一
Tel.092-411-0119

4/27（土）17:10　2単位　沖縄
第1回 琉球整形外科フォーラム
中外製薬㈱
村重 憲男
Tel.098-861-1211

は消せ」と言ってきます。それで結局，つまらない論文になってしまうのです。また，日本人は書きすぎる傾向にあるので，往々にして焦点が定まらなくなってしまうのです。その点を考えると，Lancet の letter などがよいでしょう。

織部：なるほど。そのようなこともあるので，英語の個人レッスンを始めて 1 年になります。

—ACR や EULAR などで発表されればよいですね。

織部：行きたいけれど，開業しているとなかなか時間が取れません。

—最近は，代診専門で全国を飛び回っている，リウマチ専門医もいるのでそのような方に任せれば海外の出席も可能ですよ。

織部：そのような先生がおられるなら，1 週間のうちの 3 日でもお願いできれば行けそうですね。

—先生が気づかれた，興味深い知見についてはいかがでしょう。

織部：この年になっても，新たな発見というのはたくさんあります。最近では，回帰性リウマチが感染で説明できるのではないかと気づいたり，線維筋痛症の治療に絶食療法を応用したりしています。

—私は，線維筋痛症はうつ病の一症状ではないかと思っているのですが。

織部：そうかも知れませんが，絶食がかなり劇的に効きます。絶食療法を始めるにあたっては，いろいろ文献を検討して，試してみるとよく効いたので今では精力的に進めています。2 週間入院してもらって 10 日間絶食というスケジュールです。また，UCTD（Unclassified Connective Tissue Disease）的な要素と，SAPHO 症候群的な要素が混在していて，「どこへ行っても治らない」と言って来院した患者さんの診断をつけ，軽快したときには非常に楽しかったです。

—リウマチ発症の基礎について何かお考えがありますか。

織部：先ほどの IL-6 や TNF- α のお話とも関連しますが，発症のきっかけがサイトカインネットワークの上流か下流かということが病態と関連しているという印象です。私はこれを“サイトカインロード”と呼んでいますが，下流が関与すると小関節が病巣となり，中流では大関節，さらに上流では全身性，つまり下流だと TNF- α が，中流は IL-6 が，そして上流では T 細胞が関与するという考え方です。それから，いずれか 1 つのサイトカインを抑制すると，別のサイトカインが亢進しますね。

—そのあたりは，さらに考察が必要ですね。

織部：そうですね。基本的にはネットワークのバランスの問題だと思っています。

リウマチ診療は触れることから始まる

—先ほどから，ご著書を出されていることや「織部塾」の話題が出てきますが，やはり後進に何か残さないと，という思いがおありなのでしょうか。

織部：そうですね。大分県内で考えても，「リウマチ専門医を 3 軒回っても 1 度も触ってもらっていない」という患者さんがいました。当クリニックに来て「体が痛い」というので触ったら，もう両手とも進行していて，X 線などの検査所見に典型的な兆候は出ていませんでしたが，リウマチであることは疑いなかったですね。また，MRI で骨髄浮腫所見が出たのでリウマチを診断されて 2 年間メトトレキサートとタクロリムスで治療されてもはかばかしくない患者さんが来られましたが，私が診てみると「これは OA だよ」ということがあるのです。

—そうなのですね。診断基準に頼り切るのもよくないですし，道後温泉病院の高杉先生がおっしゃるように「触りなさい。それですぐ分かるのです」ということですね。

織部：はい。だから自分がたどりついたこの境地を後に残さないといけないと思っています。触れば熱があって，腫れているのが分かりますから。触らないと分からないことはありますから。転勤で大学病院から紹介された患者さんの中にも，「1 度も触られたことがない」と言う患者さんはいます。ベシュライバー制というのでしょうか，1 年間外来できちんと修行することが大切だと思いますが。

—それをするには，しっかりした指導者がそろっていなければならないのですが，そこが難しくなっていますね。

織部：ブシラミンと鎮痛剤でコントロールできるような患者さんにも，前医で生物学的製剤が投与されていた，という経験もあります。副作用の心配もありますし。医療

（次ページに続きます）

流行のチェアではなくベッドで対応

資源の無駄遣いでもあります。

患者さんの満足を得る診療とは

―先生は1日に80人の患者さんを診察されるそうですが，患者さんの中には長く話したがる方もおられると思います。しかし，診療はほぼ時間通り終えられているようですが，何かコツがあるのですか。

織部：それにはテクニックがあります。話はじっくり「そうか」と聞きますが，ぱっと間を見て「今日は気を付けて，転ばんごと帰ってね」と言うのですよ。それは「そろそろ帰りなさい」という意味ですよね。「うちの玄関のとこ段があるから気を付けて。立てる？じゃあ，気を付けて」とも言いますね。すると患者さんには99％満足して帰っていただけます。

―病気以外のいろいろな話が出ると思いますが，それについてはどうコントロールされていますか。

織部：全部聞きますよ。そして，すべての患者さんの訴えに答えを一応出しています。例えば，娘夫婦が「お金がない，お義母さんがどうだと言っている，いつもけんかをしている」などという話も聞いてあげて，「それはいい方法があるのだよ。娘さんに何でもいいから，分かった，分かった，って言ってごらん」とか，そんなことまで患者さんの訴えには必ず答えを返す，そのように努めているのです。

―すごいですね。

織部：今日も足の底が肉厚で触ってもよく分からない患者さんが，足がしびれると言って受診しましたが，「足の神経というのは細くて周りに肉が一杯あるから挟まれてそれで違和感があるのだよ。これはモルトン病だから命に影響しないよ」というように，即座に答えを必ず返します。

―それはどのようにして会得されたのですか。

織部：そうですね。とにかく日ごろから患者さんの質問で，それはこうかなと思ったら全部書きとめて，解決策は必ず毎回探しています。そのノートが毎年1冊で，20年で20冊になりました。

―なるほど。

織部：例えば，交通事故に遭った後，患者さんのリウマチが悪化したというのが3例そろったので，その共通点はあるのかとか，海外旅行から帰ってきたらリウマチがひどくなったがその理由は何かとか興味深い知見が得られています。

投与ミスを未然に防ぐ対応

清潔習慣の勧め
―特に生物学的製剤を投与されている患者さんへ―

1）不潔な手で決して，自分の目，耳，鼻に触れないこと。目をこすったり，耳に触ったりするときは必ず，手を洗ってから行うこと。
2）帰宅したらまず手洗いとうがいを行う。ばい菌を洗い流すことが大事。
3）お金，お札はばい菌の固まりである。触れた手は同じ程度に汚染されていることを知れ。
4）入浴の際，顔を洗い，皮膚を洗い，眼，耳，鼻をすすぐ。洗い流すことが大切である。
5）手や皮膚の傷は，入浴後に毎日点検し，少しでも傷を見つけたら，こまめにイソジンで消毒する。
6）爪はばい菌が入りやすい。爪切りが爪を痛める最大要因である。丁寧に爪切りを行い，深爪をしないよう細心の注意を払う。
7）水虫を爪で掻くと，爪水虫の原因となる。その爪から全身へ水虫が広がるのである。決して皮膚のかゆい部分を自分の爪で掻かない。
8）人混みはウイルスやばい菌のあふれた場所である。ばい菌はマスクで防げるがウイルスはマスクでは防げないことを知れ。人混みから帰ったらすぐ顔を洗い，うがいをして洋服の外に出た部分から汚染物質を洗い流す。ウイルス汚染対策は予防接種が一番である。
9）口腔内は予想以上にばい菌が多い。虫歯の手入れと水道水によるうがいが感染予防の第一歩である。

織部リウマチ科内科クリニック院長 織部 元廣

自分がハッピーであれ それは患者さんにも伝わる

―先生は，武道，音楽，英語と，いろいろなことを手掛けておられ，「趣味は医者」とおっしゃっていましたが，その多方面の活動のバランスはどのようにとっておられますか。

織部：人間の心は，1つのものだけを追っていると行き詰まると思います。空手をやり，音楽をやり家族も大切にして，そして自分がハッピーだったら，それは患者さんにも伝わると感じています。私は酒も煙草も一切やらず，朝5時半には起きて，突き100本，スクワット100本のトレーニングを20年間続けています。子供は，娘が結婚して孫が2人，息子は九州大学医学部の精神科に入局し，今はハーバード大学に留学中で，孫も1人おります。近々，家内と2人で息子の所に行ってきます。そのような，自分の幸せは患者さんにも伝わると思っています。

―それは確かに伝わりますね。自分の調子が悪いと患者さんの病状も悪化するという印象はありますね。看護師から「後藤先生が来たら患者さんがにこにこして明るくなった」と言われて，主治医の心のありようは大切だなと感じられますね。

本日は，連携のあり方，実地医療でなければ得られない知見，診療のコツなど幅広いお話がうかがえたと思います。大変ありがとうございました。

（文責編集部）

●院長紹介
織部リウマチ科内科クリニック 院長
織部元廣（おりべ もとひろ）氏

●略歴
昭和26年2月4日生まれ
順天堂大学医学部卒業（昭和50年）
九州大学温泉治療学研究所医員（昭和50年）
大分県立病院第1内科（昭和53年）
国立別府病院理学診療科医長（昭和57年）
大分赤十字病院第3内科部長（昭和60年）
大分赤十字病院副院長 リウマチ科部長兼任（平成12年）

●専門領域
日本内科学会認定医
日本リウマチ学会指導医，認定医
日本リウマチ学会評議員
日本リウマチ財団登録医
九州リウマチ学会評議員
日本臨床リウマチ学会理事
日本東洋医学会認定医
日本糖尿病学会会員
日本臨床血液学会会員
日本アフェレーシス学会会員

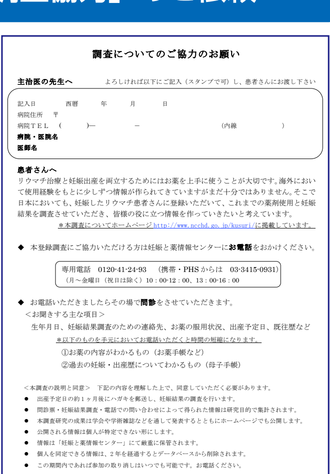
●著書
リウマチケアハンドブック
内科学書（文光堂）：リウマチのリハビリテーション
消化器病学：膠原病の消化器病変
鎮痛抗炎症剤の選び方と使い方
リハビリテーション - 物理療法 -
運動器の痛み - 診かた・治し方
リウマチの生活革命
101のリウマチ物語
など著書多数

独立行政法人 国立成育医療研究センター 妊娠と薬情報センター「リウマチの治療薬と妊娠に関する調査協力」のご依頼

現在，妊娠している関節リウマチ患者さんの疫学調査への登録が実施されています。

協力いただけそうな患者さんがいらっしゃいましたら，記載の専用電話0120−41−24−93（ヨイ ニンシン クスリ）（携帯からは03−3415−0931）にご連絡を頂くようにお伝えください。HP（http://www.ncchd.go.jp/kusuri/news/ra.html）には右記のような詳細をお伝えするための説明書のPDFがございます。ダウンロードしてご使用ください。

0120-41-24-93
(03-3415-0931)
月～金（祝日を除く）
10：00～12：00，13：00～16：00


調査についてのご協力のお願い

科研製薬は「運動器の10年」世界運動を推進し、QOLの向上に貢献してまいります。

関節機能改善剤
（精製ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液）
処方せん医薬品 注意―医師等の処方せんにより使用すること
アルツ®関節注25mg
処方せん医薬品 注意―医師等の処方せんにより使用すること
アルツディスポ®関節注25mg
ブリスター包装内滅菌済

特許登録―日本国特許第3831505号：第3845110号（医療用滅菌包装における滅菌方法）
〔製造販売元〕生化学工業株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目6-1

抗NSAID潰瘍剤（ミソプロストール錠）
劇薬 処方せん医薬品 注意―医師等の処方せんにより使用すること
サイトテック® 錠100・錠200
〔製造販売〕ファイザー株式会社 東京都渋谷区代々木3-22-7

●各製品の効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、製品添付文書をご参照ください。
●各製品共、薬価基準収載

科研製薬株式会社
〔発売元・資料請求先〕〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
6F10P（2011年3月作成）

ノバルティス・リウマチ医学賞受賞者，日本リウマチ財団柏崎リウマチ教育賞受賞者，三浦記念リウマチ学術研究賞受賞者及びリウマチ性疾患調査・研究助成者は、下記の各氏に決まりました。

【平成 25 年度
ノバルティス・リウマチ医学賞】

梅原　久範
金沢医科大学 血液免疫内科学講座 教授
研究題目：IqG4 関連疾患の病因病態関連蛋白および関連遺伝子の探索

リウマチ性疾患の病因，発生機序，あるいは画期的治療等に関する独創的な課題に取り組み，自然科学の発展に大きく寄与した研究を顕彰する。

【平成 25 年度
日本リウマチ財団柏崎リウマチ教育賞】

鳥巣　岳彦
大分大学名誉教授
九州労災病院名誉院長

永年にわたりリウマチ性疾患にかかわる医学教育を通じ，わが国のリウマチ学の進歩・発展に著しく貢献された方を顕彰するものである。

※ 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター名誉所長であった故柏崎禎夫氏の遺志により創設。

【平成 24 年度
三浦記念リウマチ学術研究賞】

白井　剛志
東北大学病院 血液免疫科 医員
研究題目：脳症を呈する膠原病患者における抗 ephrin type-B receptor2（EphB2）抗体の臨床的・病原的意義の解明

リウマチ性疾患に関する独創的な調査研究を行っている研究者に授与される。

※ ご自身がリウマチ患者さんであった故三浦ふさ子さんからの寄付金により創設。

授賞式は，６月９日東京・丸ビルホールにおいて開催の「リウマチ月間リウマチ講演会」の場で行われます。

【平成 24 年度
リウマチ性疾患調査・研究助成】（50 音順）

34 名の応募者の中から７名（三浦記念リウマチ学術研究賞受賞者１名）が選ばれました。助成金は各 100 万円。

助成者：井上 明日香
所　属：筑波大学医学医療系内科（膠原病・リウマチ・アレルギー）助教
研究題目：自己免疫性関節炎における新規関節炎制御分子 TIARP の抑制機構の解明

助成者：古賀 貴子
所　属：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学客員助授
研究題目：細胞種に依存するカルシウム制御の相違に基づくリウマチ性骨破壊の予防・再生治療

助成者：永井　潤
所　属：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 分子創薬科学講座・技能補佐員
研究題目：関節リウマチを制御する脂質メディエーターの免疫・神経間クロストーク解析と治療への応用

助成者：長谷井 嬢
所　属：岡山大学病院 整形外科 医員
研究題目：microRNA-140 による軟骨保護作用の解析と標的遺伝子の解明

助成者：波多野 寛子
所　属：広島大学大学院医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門口腔外科学研究室
日本学術振興会特別研究員
研究題目：The role of innate immune receptor interactions with HLA-B27 in inflammatory arthritis

助成者：安岡 秀剛
所　属：慶應義塾大学医学部 助教
研究題目：新規強皮症モデルマウスを用いた病的線維化における単球の役割の追究

TOPIC　公立大学法人横浜市立大学記者発表資料より

横浜市立大学医学研究科 石ヶ坪教授らの研究グループが，ベーチェット病の新しい疾患感受性遺伝子と発症メカニズムを発見！

横浜市立大学大学院医学研究科病態免疫制御内科学教室の石ヶ坪　良明教授（厚生労働省ベーチェット病班 研究代表者）らの研究グループはゲノムワイド関連解析にて厚生労働省の特定疾患であるベーチェット病の新しい疾患感受性遺伝子と発症のメカニズムを発見した。

本研究成果は米国の科学雑誌『Nature Genetics』（平成 25 年 1 月 6 日オンライン版）に掲載された。

【ポイント】
- **同定された４つの遺伝子は炎症に関与しており治療標的として有望**
- **メカニズムとして細胞内で，白血球抗原へペプチドが提示される過程が重要**
- **ベーチェット病と強直性脊椎炎・乾癬・炎症性腸疾患と類似した発症メカニズムが存在し，共通した治療戦略が期待される**

○研究の背景

ベーチェット病はぶどう膜炎，皮疹，口腔・陰部潰瘍など全身に発作的な炎症を繰り返す難治性疾患で，厚生労働省の特定疾患に最初に認定され，平成 22 年 3 月末時点で，受給者数は 17,290 人である。患者は日本・トルコなどのシルクロード沿いのアジアに多く，発症には環境因子と遺伝素因の両方が重要と考えられている。最も強い遺伝素因としてヒト白血球抗原（*HLA*）*-B*51*（たくさんある *HLA-Class I* の中の１つ）が知られているが，病気における役割はよくわかっていない。ベーチェット病はときには失明に至り，病態解明が急がれる。

○研究の内容と成果

石ヶ坪 教授，同教室桐野 洋平 助教，同大眼科水木 信久 教授ら横浜市大グループは，米国国立衛生研究所，トルコイスタンブール大学と国際共同研究を行い，桐野助教を中心として，日本人・トルコ人計約 5000 例の患者・健常人の検体を解析した。トルコ人ゲノムワイド関連解析の情報を，「インピュテーション法（* 1）」を用いて統計学的に増幅して再解析したところ，新規の疾患感受性遺伝子 *CCR1*（ケモカイン受容体），*STAT4*（転写因子），*KLRC4*（ナチュラルキラー細胞受容体），*ERAP1*（小胞体アミノペプチダーゼ）を同定した。

通常異なる染色体上に存在する遺伝子間には相関は認めないが，*ERAP1* と *HLA-B*51* 両者の素因を持つとリスクの相乗効果（エピスタシス）を認めた。*ERAP1* と *HLA-Class I* とのエピスタシスは強直性脊椎炎と乾癬でも報告されている。*ERAP1* は小胞体に存在し，*HLA-Class I* に乗せるためにペプチドを短くする働きがあることから，ペプチドのヒト白血球抗原への提示過程がこれらの疾患で極めて重要であることを示している（図）。*CCR1* と *STAT4* 近傍の *SNP*（*2）はこれらの遺伝子の *mRNA* 発現量と関連していることを明らかにした。

○今後の展開

今回見つかった遺伝子や，*ERAP1* を介したヒト白血球抗原への提示プロセスを標的とした，より副作用の少ない疾患特異的治療薬の開発につながると期待される。

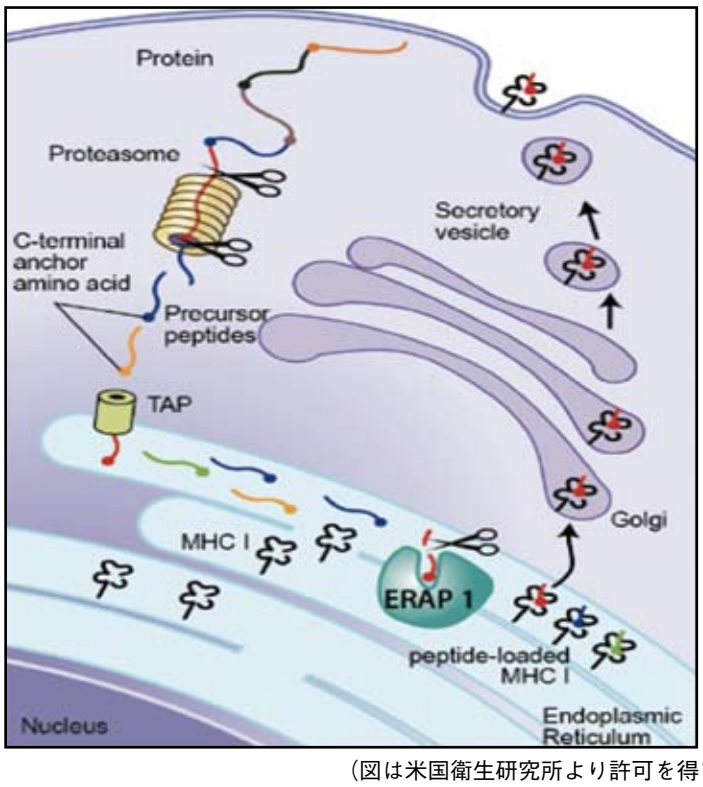
また，平成 24 年 7 月 13 ～ 15 日に日本では 31 年ぶりとなる国際ベーチェット病会議（会長 石ヶ坪 良明）を横浜で開催し，大盛況のうちに終了した。今後も日本におけるベーチェット病への関心と研究・診療の更なるレベルアップを目指していく予定だ。

＜用語解説＞

（*1）インピュテーション法
公開された高密度な遺伝子型情報などを参照し，統計学的に遺伝子型を推測して，手元にある *SNP* 情報の密度を増幅させる手法。

（*2）*SNP*
Single nucleotide polymorphism（一塩基多型）の略。ヒトのゲノムに数百個に一個程度の割合で存在し，人口の 1％以上認められるものをいう。ヒトの遺伝子型を予測することができる *SNP* が知られており，DNA チップを用いて数十万～数百万個ゲノタイプすることができる。*SNP* と疾患との相関をゲノム全体で調べることで，疾患に関係する遺伝子型をバイアスがなく見つけることができる。*SNP* の中で遺伝子発現量などの機能を持つものも存在する。

図 ベーチェット病に関与している ERAP1 を介した MHC（HLA）-Class I への抗原提示過程



（図は米国衛生研究所より許可を得て掲載）

お問い合わせ先
（本資料の内容に関するお問い合わせ）
医学研究科病態免疫制御内科学
石ヶ坪 良明
Tel：045-787-2628
Email：ishigats@med.yokohama-cu.ac.jp
（取材対応窓口，資料請求など）
研究推進課長
嶋崎 孝浩
Tel：045-787-2019

本トピックの原稿は，石ヶ坪 氏の提供によりほぼ原文通り掲載した。詳細は，上記問い合わせ先にお願いする。

平成 25 年度 リウマチ教育研修会 開催予定

医師を対象にリウマチ教育研修会を次のように開催する予定です。
※ 開催場所等変更する場合があります。ホームページでご確認ください。

地区名	開催日	開催場所	世話人
北海道・東北	6/30（日）	山形国際ホテル	山形大学医学部整形外科 髙木 理彰 主任教授
関東・甲信越	11/23（土 /祝）	東京ステーションコンファレンス	筑波大学医学医療系 内科（膠原病・リウマチ・アレルギー） 住田 孝之 教授
東海・北陸	12/8（日）	未定	富山大学大学院医学薬学研究部 整形外科・運動器病学 木村　友厚　教授
近　畿	平成 26 年 2/9(日)または 1/19（日）	未定	大阪リウマチ・膠原病クリニック 西本　憲弘　院長
中国・四国	10/6（日）	JR ホテルクレメント高松	香川大学医学部 内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 土橋　浩章　講師
九　州	10/13（日）	佐賀市文化会館	国立病院機構嬉野医療センター 河部 庸次郎 副院長

平成 25 年度 リウマチの治療とケア研修会 開催予定

医師をはじめ，医療関係者等を対象にリウマチの治療とケア研修会を次のように開催する予定です。※開催場所等変更する場合があります。ホームページでご確認ください。

地区名	開催日	開催場所	世話人
北海道・東北	8/10（土）	リンクステーションホール青森（青森市文化会館）	弘前記念病院整形外科 三浦　孝雄　先生
関東・甲信越	7/21（日）	日石横浜ホール	横浜市立大学附属病院 整形外科 齋藤 知行 診療科部長・主任教授
東海・北陸	9/22（日）	福井商工会議所	福井総合病院 林 正岳 院長
近　畿	平成 26 年 3/16（日）	ノボテル甲子園	神戸海星病院 立石　博臣　理事長・院長
中国・四国	11/10（日）	未定	美摩病院 吉野川リウマチセンター 四宮　文男　院長
九　州	平成 26年 1/26(日)	ホテル熊本テルサ	比企病院 忽那　龍雄　先生

平成 25 年度 リウマチ月間リウマチ講演会 開催予定

■ 開催日時：平成 25 年 6 月 9 日（日）13：00 ～
■ 開催場所：丸ビルホール〔東京都千代田区丸の内 2-4-1　丸ビル 7 階〕
リウマチ財団登録医と登録リウマチケア看護師の教育研修単位取得予定。

国際学会におけるリウマチ性疾患調査・研究発表に対する助成について

募集要項等詳細は財団ホームページをご覧ください。

財団では新規リウマチ財団登録医を募集しています

≪要件≫
1．引き続き 3 年以上リウマチ性疾患の診療に従事している医師
2．過去 5 年間において
（1）リウマチ性疾患診療患者名簿　　30 名以上
（2）リウマチ性疾患診療記録（上記名簿のうち）　20 名
（3）財団主催・認定の教育研修会，e ラーニング修得による教育研修単位 20 単位以上
3．日本リウマチ財団登録医・日本リウマチ学会リウマチ専門医・日本整形外科学会認定リウマチ医である 2 名の推薦を受けること

≪手続き≫
1．登録医申請書
2．履歴書
3．資格要件を満たすことを証する書類

≪申請受付期間≫
平成 25 年 3 月 1 日から 5 月 31 日
審査料（申請時）1 万円
登録料（審査に合格後）2 万円　　登録医証を交付

≪登録有効期間≫
登録日から 5 年間、再審査により効力を更新する
※ 規則及び申請書類一式はホームページからダウンロードできます。

平成 25 年度のリウマチ財団登録医資格更新はありません。

市民公開講座等，一般（患者さん等）向けの講演会を開催予定の登録医へ

リウマチ情報センター「患者さん向け講演会」のコーナーに，主催，世話人，演者等でリウマチ財団登録医が関係する患者さんやそのご家族に向けての公開講座，講習会等を掲載します。詳しくは財団 HP をご覧ください。

お名前，登録医番号，e メールアドレスを明記の上，会の名称，開催日時，場所，内容（プログラム），HPのある場合はURL等詳細を下記のアドレスまでお送りください。開催日の 1 カ月前までにご連絡ください。

e-mail：inform@rheuma-net.or.jp

但し，掲載は以下の要件を満たすこととします。
・リウマチ財団登録医が主催，世話人，演者等であること。
・内容がリウマチ性疾患であること。
・対象が一般市民（患者さんやその家族等）であること。
・営利目的ではないこと（商品名が会の名称にあるもの等は許可しない）。

ご寄付いただいた方 ～平成 24 年 12 月～

●**使途**　当財団のリウマチ性疾患調査・研究奨励基金として，リウマチの予防と治療に関する調査・研究およびその助成に充当させていただきます。

吉田 健太郎 様

財団ホームページ　リウマチ情報センター

http://www.rheuma-net.or.jp/rheuma

編集後記

「アベノミクスと医療改革」

3 年 4 ヶ月続いた民主党政権はあっけなく崩壊し，再び自民党が政権に返り咲いた。現政権は「強い経済の再生」を打ち出し，アベノミクスとやらで現在円安，株高が続いており，景気はまだよくなった実感はないにもかかわらず，世の中はうかれているような状況である。アベノミクスの三本の矢の一つとして成長戦略をどう成し遂げていくかが成功の鍵を握っているといわれている。

成長戦略には健康，医療も入っており，この分野に民間が資本を投下して，医療関連事業を展開させて国益の拡大に繋げればというものである。そのためにこの分野でビジネス展開をしようという人たちは「新薬の早期認可」，「株式会社による病院経営」や「混合診療の全面解禁」など医療における様々な規制緩和の要求を行なっている。今のところ上記の規制緩和が真の意味で患者視点に立ったものとなるかどうかは不明である。

規制緩和については日本と欧米諸国とのドラッグラグが目下の大きな問題である。欧米で先に認可された医薬品が認められるまでの期間は先進国の中で日本が最も長く，一般的に 4 年ほどかかるといわれており，特に免疫病やがん領域の新薬については患者さんへの使用が遅れていることが大きな問題である。関節リウマチの生物学的製剤がそのよい例であるが，政府の成長戦略の施策により有効かつ安全な新薬がより早く，より安く患者の手に届くのならば非常に望ましいことであるが，単に企業の利益拡大のみに終わることのないように願いたい。

生物学的製剤について高価であるがために最近の不景気による収入減により使用回数を減らしたり，断念せざるを得ない患者さんも何人か経験している。この点について御主人の海外転勤のためロンドンに移住した生物学的製剤を使用していた関節リウマチ患者さんの例を紹介したい。現在ほぼ軽快状態なのでロンドンの専門医では関節リウマチの確定診断がつけられないとのことで小生に連絡が入り，日本での関節リウマチ症状記述を行い連絡したところ患者から「おかげで National Health Service（NHS）から自宅に無料で生物学的製剤が届いた」という知らせを受けた。それにつけても英国のように高額医薬品が無料で受けられる制度が，成長戦略の医療分野での成功により強い経済をとり戻し，本邦でも実現できるような制度改革につながっていくのであれば，もろ手を挙げて支持したい。

（森本 幾夫）
順天堂大学大学院医学研究科
免疫病・がん先端治療学講座

【日本リウマチ財団ニュース　編集委員】　委員長：後藤　眞　桐蔭横浜大学医用工学部生命・医工学科不老科学・加齢制御学部門 教授
岡田正人　聖路加国際病院アレルギー膠原病科（SLE，関節リウマチ，小児リウマチ）
仲村一郎　三井記念病院・整形外科
村島温子　（独）国立成育医療研究センター 母性医療診療部部長
羽生忠正　長岡赤十字病院 副院長
森本幾夫　順天堂大学大学院医学研究科免疫病・がん先端治療学講座 教授
山村昌弘　岡山済生会総合病院内科診療部長／リウマチ・膠原病センター長